

こども商店街、こども議会などの各地の施策について



こどもが商いをする
イベントの起点のひとつ

国立総合児童センター
こどもの城（1975-2015年）での
定期イベント、
『てくてこパーク』で、
こどもが駄菓子などを売買する体験が
行われていました。

現在は、こどもの自主性、創造性をどのように
デザインするかによっていくつかの形態が
あります。
地域の商店街や商工会とどのように連携するか、
こどもの自主性、創造性をどう位置づけるか、
によって形態を設計（デザイン）することができます。

こども商店街の事例

世田谷（東京）

世田谷区の公園「羽根木プレーパーク」が
主催し、子供達がお店の内容からすべて考え
つくり、お店を開く、自由なこども商店街。
実際にお金をやりとりする。

<https://setamin.com/report/16754>



黒崎（北九州市）

北九州市の商店街が、こども（保護者）から参
加500円を集めて開催するこども商店街。
食べ物屋、販売店、銀行員など、用意された
お店を選んで参加する。お金ではなく、会場内
通貨を使う。

<http://kurosaki-kodomo.net/>



豊田市など（愛知県に集中）

「こども夢の商店街」という名称で、開催企業であ
る一般社団法人ユメフルサトが発行するおむすび通
貨を会場内でやり取りする。企業のCSR活動として
提供されている。こどもは、銀行、放送局など予め
決められたお店を選んで参加する（開催場所はイオ
ンが多い傾向）

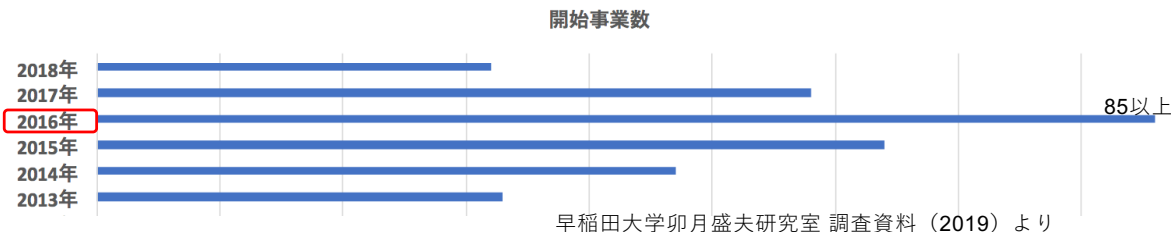
<https://www.f-money.com/about/>



関連情報 こども議会の各地事例

2016年に、公職選挙法が改正され、18歳選挙権が施行されてから、各地で「こども議会」が一気に増加。
しかし、多くは一度きりの開催、参加者は学校が選定というパターンであり、予定調和の場となっています。

2023年からは、「こども基本法」が施行されることで、
法律に基づく形で、こどもの地域参加が基礎自治体にも求め
られることで、「こども議会」の在り方が変わる大きな節目と
なります。少なくとも従来パターン（一部の児童、生徒の
参加に限定、単発）とは異なる運営方法が求められます。



『ポリネコ!』の応用で、市内の小中学生、高校生全員が参加（意思表示）できる、通年のこどもの地域参加が可能になります。

(定期)

彦根市子ども議会



主催は、彦根市、と
彦根市教育委員会、
彦根市議会の三者による
共催。

平成21年からこれまでに
12回開催されている。

小学生が20名から30名が
毎年参加。（6年が多い）

質問作成の研修から、
議会のリハーサル、
本会議と大きく三段階に
分けて実施。

(定期)

宝塚市子ども議会



平成19年につくられた
「宝塚市こども条例」に
基づき実施。

リーフレットを4年生、
中学1年生に毎年配布

これまでに20回実施され
ている。（途中コロナに
よる開催見合わせもあり）

小学生10名から20数名が
参加（低学年から参加）

Youtube配信も行う。

単発（不定期）

三沢市子ども議会



平成20年8月に市政施行
50周年を記念した
『小・中学校模擬議会』
として開催され、平成
27年に再度開催された。

議員は市内小学生から
公募に応じた小学5年6年
の9名。

情報発信は、シティ
プロモーション課が行っ
ている。

(定期)

三条市子ども議会



こども議会は平成27年か
ら行われている。

三条市が、職業体験施設
「キッザニア」の企画・
運営を行うKCJ GROUP株式
会社の協力のもとに行う
三条市内での職業体験
「キッザニアマイスター
フェスティバル」の一環
として行う取り組み。

新潟県内の小中学生対象。

(通年)

新城市若者議会



新城市若者条例・新城市若者
議会条例に基づき運営される
通年の取り組み。

現在は7期目。20名の委員が
自分達の課題、地域課題など
を発見し議会に提案する。
サイトも独自に運営する。

(<https://wakamono-gikai.jp>)

1000万円の予算提案権があり、
既存施設の改修によって、
自習ができる環境の実現に、
つながったことがある。

このメンバーから市議会議員
になったケースもある。